



あなたの、いちばんであるために。2016. 1～3月期 No. 033

# やましん

## 中小企業景況レポート

山梨信用金庫 総合企画部  
〒400-0032 甲府市中央 1-12-36  
TEL 055-225-0213  
ホームページアドレス  
<http://www.yamasin.jp/>

2016. 4. 15 発行

### ■ 調査要領 ■

1. 調査対象  
当金庫営業エリア内の取引先中小企業 120 社
2. 調査時期・期間  
調査時期：2016年3月1日～7日  
調査期間：今期実績 2016年1月～3月  
来期見通し 2016年4月～6月
3. 調査方法  
当金庫職員による訪問聞き取り調査
4. 分析方法  
DI を中心に分析

### ■ 調査対象と回答状況 ■

業種	企業数	回答数	回答率
製造業	30	30	100%
卸売業	15	14	93.3%
小売業	15	15	100%
サービス業	29	28	96.5%
建設業	23	23	100%
不動産業	8	8	100%
合計	120	118	98.3%

※ 国中地区 72 社、東部地区 30 社、相模原市周辺地区 16 社

### ※ DI (Diffusion Index) とは

各質問事項で「良い（増加）」とした企業割合－「悪い（減少）」とした企業割合の構成比との差（判断 DI）による分析です。  
例えば、回答が以下のような場合の DI の算出方法は、次のとおりです。

（例）「良い・やや良い」の回答が 50%、「変わらず」の回答が 30%、「悪い・やや悪い」の回答が 20% の場合

DI は  $50「良い・やや良い」 - 20「悪い・やや悪い」 = +30$  となります。DI 値が高いほど景気が良いことを示しています。

### 業況判断 DI

業種	前期	今期実績			来期見通し		
		良い	悪い	DI	良い	悪い	DI
総合	▲6.8	19.7	35.9	▲16.2	17.9	26.5	▲8.6
製造業	▲10.3	13.3	40.0	▲26.7	13.3	30.0	▲16.7
卸売業	▲21.5	0.0	35.7	▲35.7	21.4	21.4	0.0
小売業	▲6.7	33.3	40.0	▲6.7	26.7	20.0	6.7
サービス業	▲3.5	17.9	35.7	▲17.8	17.9	25.0	▲7.1
建設業	4.3	22.7	31.8	▲9.1	13.6	31.8	▲18.2
不動産業	▲12.5	50.0	25.0	25.0	25.0	25.0	0.0

### 業種別景気天気図

業種	前期	今期	見通し
総合			
製造業			
卸売業			
小売業			
サービス業			
建設業			
不動産業			

※本レポートは、標記時点における情報提供を目的としています。また、掲載資料は、正確性・完全性を保証するものではありません。

31 以上	11~30	10~▲10	▲11~▲30	▲30 未満

# 概況

## <業況・売上・収益>

今期（1～3月）のD Iをみると、業況判断D I（「良い」－「悪い」）は、前期（10～12月）の▲6.8から▲16.2と9.4ポイント悪化（前年同期比17.9ポイント悪化）しました。売上D I（「増加」－「減少」）は、同5.0から▲23.9と28.9ポイント悪化（前年同期比23.9ポイント悪化）、収益D I（「増加」－「減少」）は同▲1.7から▲22.0と20.3ポイント悪化（前年同期比16.1ポイント悪化）しました。

業況D Iについては、不動産業が同▲12.5から25.0と37.5ポイント改善し、プラスに転じましたが、製造業が同▲10.3から▲26.7と16.3ポイント悪化したほか、卸売業、サービス業、建設業でも悪化したことが要因となっています。

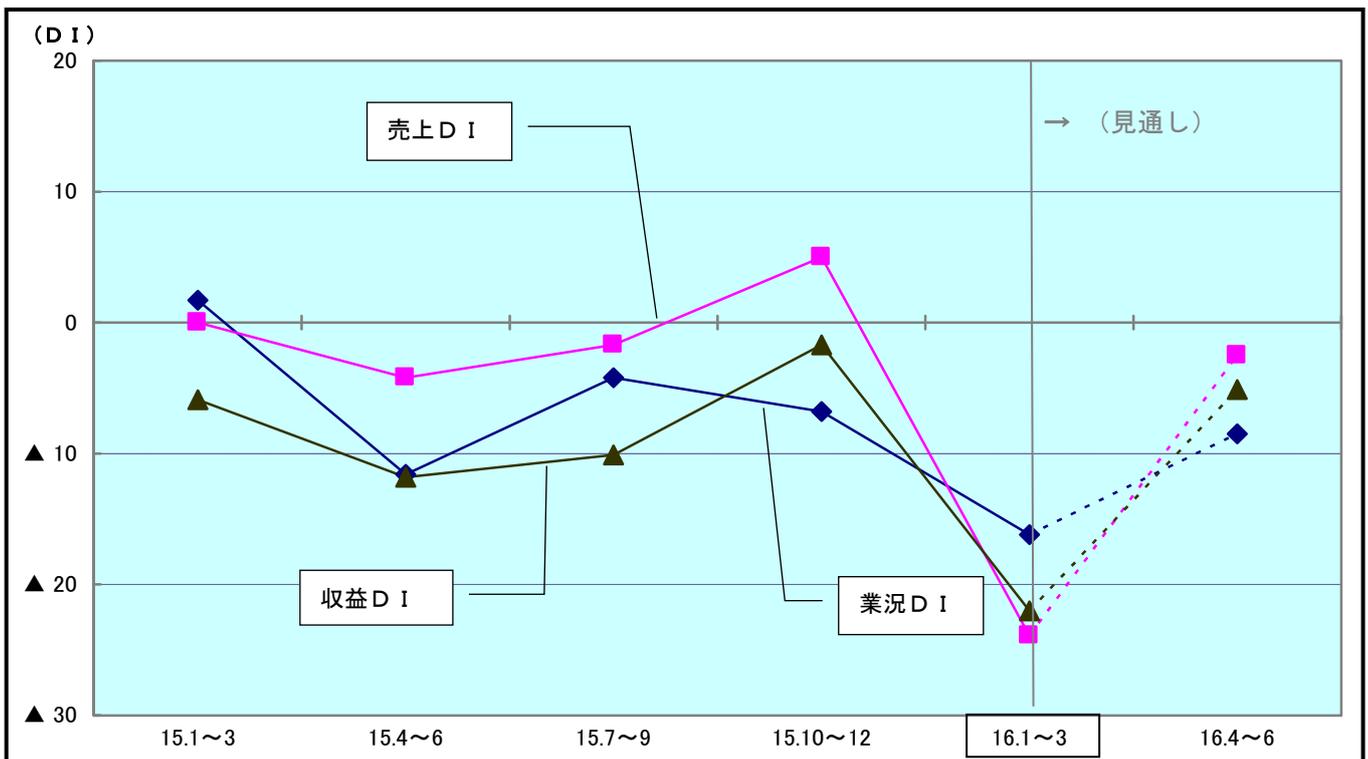
売上D Iについては、製造業が同13.3から▲33.3と46.6ポイント悪化したほか、全ての業種で悪化したことが要因となっています。

収益D Iについては、サービス業が同▲10.3から▲46.4と▲36.1ポイント悪化したほか、製造業・卸売業・小売業でも悪化したことが要因となっています。

全業種総合の来期見通し（4～6月）をみると、業況判断D Iが▲8.6と、今期実績比7.6ポイントの改善が見込まれています。また、売上D Iは▲2.5と、同21.4ポイントの改善、収益D Iは▲5.1と、同16.9ポイントの改善が見込まれています。業種別の業況判断D Iは、建設業と不動産業で悪化が見込まれるものの、製造業・卸売業・小売業・サービス業で改善が見込まれています。

### ■ 業況・売上・収益D Iの時系列推移

	15.1～3	15.4～6	15.7～9	15.10～12	16.1～3	16.4～6 見通し
業況 D I	1.7	▲11.6	▲4.2	▲6.8	▲16.2	▲8.6
売上 D I	0.0	▲4.2	▲1.7	5.0	▲23.9	▲2.5
収益 D I	▲5.9	▲11.8	▲10.1	▲1.7	▲22.0	▲5.1



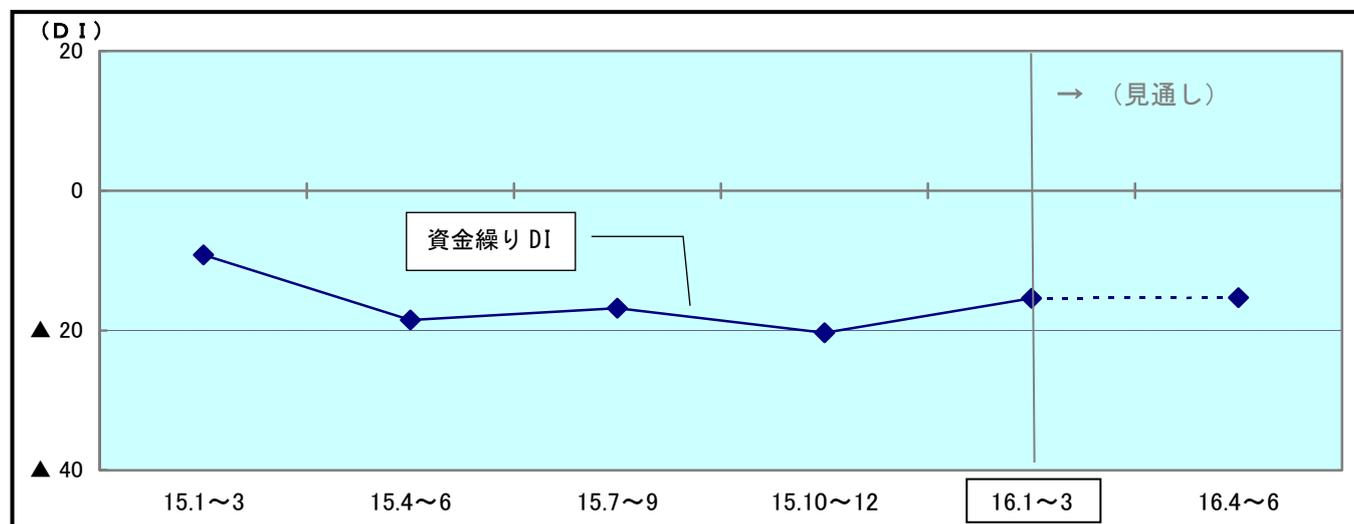
## <資金繰り>

資金繰りDI（「楽」－「苦しい」）は▲15.4と、前期比4.9ポイントの改善となりました（前年同期比6.2ポイント悪化）。

また、来期の資金繰りDIは▲15.3と、今期実績比0.1ポイントの改善が見込まれています。

### ■ 資金繰りDIの時系列推移

	15.1~3	15.4~6	15.7~9	15.10~12	16.1~3	16.4~6 見通し
資金繰りDI	▲9.2	▲18.5	▲16.8	▲20.3	▲15.4	▲15.3



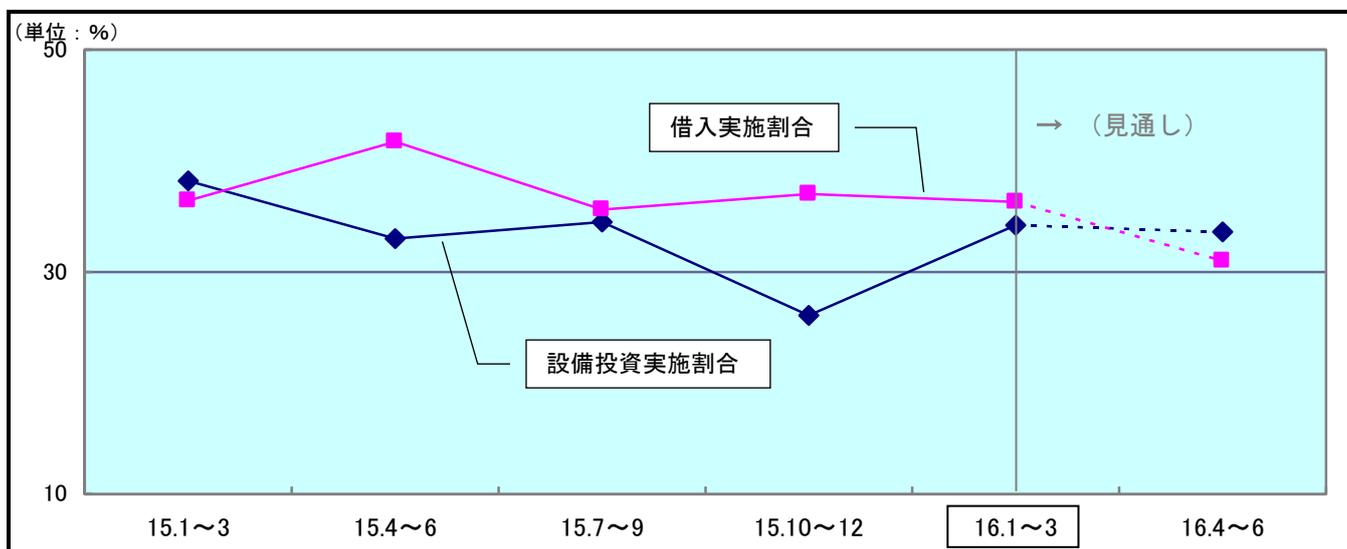
## <設備投資・借入動向>

不動産業を除いた設備投資実施企業割合は34.5%と、前期比8.4ポイント上昇しています（前年同期比3.7ポイント低下）。また、来期の設備投資実施予定企業割合は33.6%と今期実績比▲0.9ポイントの低下が見込まれています。

全業種総合の借入実施企業割合は39.8%と、前期比2.8ポイント上昇しています（前年同期比3.4ポイント上昇）。また、来期の借入実施予定企業割合は31.0%と、今期実績比8.8ポイントの低下が見込まれています。

### ■ 設備投資・借入実施動向の時系列推移

	15.1~3	15.4~6	15.7~9	15.10~12	16.1~3	16.4~6 見通し
設備投資実施割合	38.2%	33.0%	34.5%	26.1%	34.5%	33.6%
借入実施割合	36.4%	41.7%	35.6%	37.0%	39.8%	31.0%



## 【製造業】

今期の業況判断D Iは▲26.7となり、前期（10～12月）比16.4ポイント悪化となりました（前年同期比23.4ポイント悪化）。売上D Iは同46.6ポイント悪化の▲33.3、収益D Iは同26.7ポイント悪化の▲26.7、資金繰りD Iは、同3.4ポイント悪化の▲24.1と全てのD Iで悪化となりました。

来期（4～6月）の見通しについては、業況判断D Iが今期実績比10.0ポイント改善の▲16.7、売上D Iが同26.6ポイント改善の▲6.7、収益D Iは同16.7ポイント改善の▲10.0、資金繰りD Iが同2.6ポイント悪化の▲26.7と見込まれています。

### ■経営上の問題点（）内は前回順位

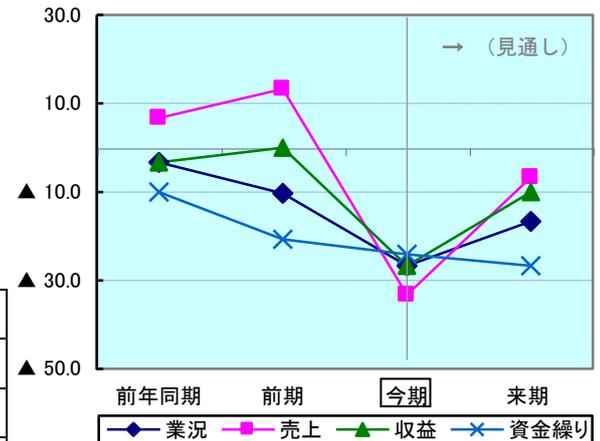
1	売上の停滞・減少(1)	53.3%
2	利幅の縮小(2)	40.0%
3	同業者間の競争の激化(4)	40.0%

### ■当面の重点経営施策

1	販路の拡大(1)	66.7%
2	経費の節減(2)	46.7%
3	新製品・技術の開発(3)	33.3%
	人材の確保(4)	33.3%

### ■主要D Iの推移

	前年同期	前期	今期	来期
業況	▲3.3	▲10.3	▲26.7	▲16.7
売上	6.7	13.3	▲33.3	▲6.7
収益	▲3.3	0.0	▲26.7	▲10.0
資金繰り	▲10.0	▲20.7	▲24.1	▲26.7



## 【卸売業】

今期の業況判断D Iは▲35.7となり、前期（10～12月）比14.3ポイント悪化しました（前年同期比35.7ポイント悪化）。売上D Iは同14.3ポイント悪化の0.0、収益D Iは同21.4ポイント悪化の▲21.4、資金繰りD Iは、同7.2ポイント改善の▲21.4となりました。

来期（4～6月）の見通しについては、業況判断D Iが、今期実績比▲35.7ポイント改善の0.0、売上D Iが同7.1ポイント改善の7.1、収益D Iが同28.5ポイント改善の7.1、資金繰りD Iが同21.4ポイント改善の0.0全てのD Iで改善が見込まれています。

こうした中、当面の重点経営施策として、「販路の拡大」を挙げる先が85.7%にのぼり、多くの企業が新規取引先獲得を課題としていることが伺えます。

### ■経営上の問題点（）内は前回順位

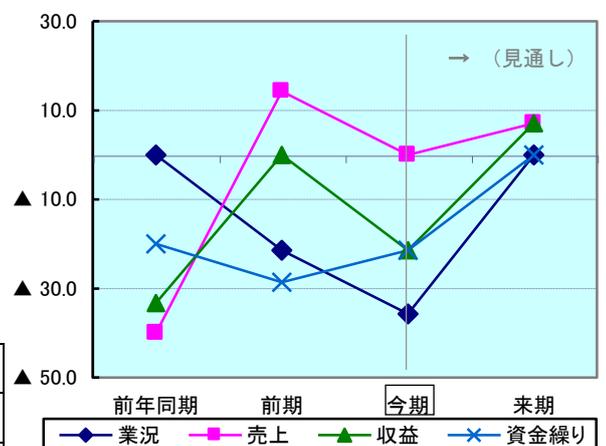
1	利幅の減少(3)	50.0%
2	売上の停滞・減少(2)	42.9%
3	同業者間の競争激化(1)	35.7%

### ■当面の重点経営施策

1	販路の拡大(1)	85.7%
2	品揃えを充実する(3)	50.0%
3	経費の節減(3)	35.7%
	情報力強化(2)	35.7%

### ■主要D Iの推移

	前年同期	前期	今期	来期
業況	0.0	▲21.4	▲35.7	0.0
売上	▲40.0	14.3	0.0	7.1
収益	▲33.3	0.0	▲21.4	7.1
資金繰り	▲20.0	▲28.6	▲21.4	0.0



## 【小売業】

今期の業況判断D Iは▲6.7となり、前期（10～12月）比で横ばいとなりました（前年同期比0.4ポイント改善）。売上D Iは同13.4ポイント悪化の6.7、収益D Iは同20.0ポイント悪化の6.7となりました。資金繰りD Iは同20.0ポイント改善の▲6.7となりました。

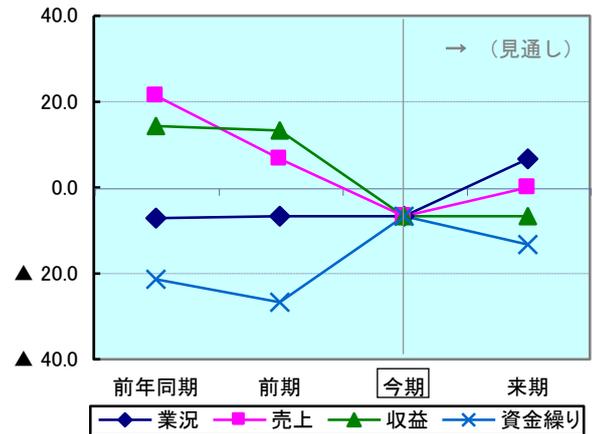
来期（4～6月）の見通しについては、業況判断D Iが今期実績比13.4ポイント改善の6.7、売上D Iが同6.7ポイント改善の0.0、収益D Iが同横ばいの▲6.7となりました。資金繰りD Iは同6.6ポイント悪化の▲13.3と見込まれています。

### ■経営上の問題点（）は前回順位 ■当面の重点経営施策

1	売上の停滞・減少(1)	46.7%	1	経費の節減(1)	53.3%
2	利幅の縮小(2)	26.7%	2	品揃えの改善(3)	33.3%
3	同業者間の競争激化(3)	20.0%	3	人材の確保(5)	26.7%
	人手不足(4)	20.0%			

### ■主要D Iの推移

	前年同期	前期	今期	来期
業況	▲7.1	▲6.7	▲6.7	6.7
売上	21.4	6.7	▲6.7	0.0
収益	14.3	13.3	▲6.7	▲6.7
資金繰り	▲21.4	▲26.7	▲6.7	▲13.3



## 【サービス業】

今期の業況判断D Iは▲17.8となり、前期（10～12月）比14.4ポイント悪化しました（前年同期比28.1ポイント悪化）。売上D Iは同32.6ポイント悪化の▲46.4、収益D Iは同36.1ポイント悪化の▲46.4、資金繰りD Iは、同3.1ポイント改善の▲10.7となりました。

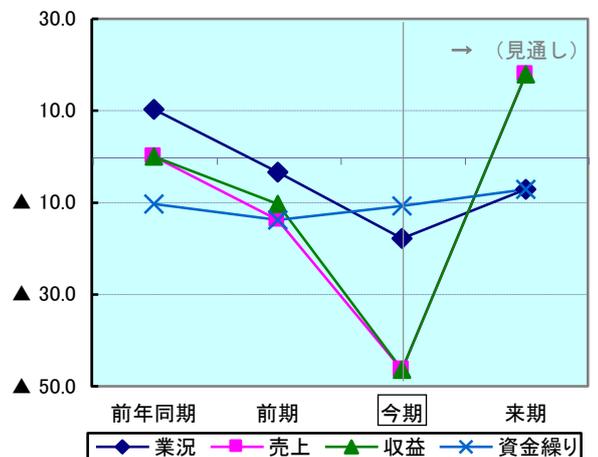
来期（4～6月）の見通しについては、業況判断D Iが今期実績比10.7ポイント改善の▲7.1、売上D Iが同64.3ポイント改善の17.9、収益D Iが同64.3ポイント改善の17.9、資金繰りD Iが3.6ポイント改善の▲7.1と全てのD Iで改善が見込まれています。

### ■経営上の問題点（）は前回順位 ■当面の重点経営施策

1	売上の停滞・減少(1)	57.1%	1	販路の拡大(1)	50.0%
2	人手不足(3)	35.7%	2	経費の節減(1)	42.9%
3	同業者間の競争の激化(2)	28.6%	3	人材の確保(4)	39.3%

### ■主要D Iの推移

	前年同期	前期	今期	来期
業況	10.3	▲3.4	▲17.8	▲7.1
売上	0.0	▲13.8	▲46.4	17.9
収益	0.0	▲10.3	▲46.4	17.9
資金繰り	▲10.3	▲13.8	▲10.7	▲7.1



## 【建設業】

今期の業況判断D Iは▲9.1となり、前期（10～12月）比で13.4ポイント悪化しております（前年同期比17.8ポイント悪化）。売上D Iは同21.7ポイント悪化の21.7、収益D Iは同横ばいの▲8.7、資金繰りD Iは、同4.4ポイント改善の▲13.0となっております。

来期（4～6月）の見通しについては、業況判断D Iが今期実績比9.1ポイント悪化の▲18.2、売上D Iが同17.4ポイント悪化の▲39.1、収益D Iが同34.8ポイント悪化の▲43.5、資金繰りD Iが同13.1ポイント悪化の▲26.1と全てのD Iで悪化が見込まれています。

### ■経営上の問題点（）は前回順位

1	同業者間の競争の激化(1)	45.5%
2	売上の停滞・減少(4)	40.9%
3	人手不足(3)	27.3%
	下請の確保難(4)	27.3%

### ■当面の重点経営施策

1	経費の節減(1)	50.0%
2	技術力の強化(2)	45.5%
3	販路の拡大(3)	36.4%

## 【不動産業】

今期の業況判断D Iは25.0となり、前期（10～12月）比37.5ポイント改善しました（前年同期比37.5ポイント改善）。売上D Iが同25.0ポイント悪化の12.5、収益D Iが同横ばいの12.5となりました。資金繰りD Iは同12.5ポイント改善の▲12.5となりました。

来期（4～6月）の見通しについては、業況判断D Iが今期実績比25.0ポイント悪化の0.0、売上D Iが同12.5ポイント改善の25.0、収益D Iが同12.5ポイント改善の25.0、資金繰りD Iが同12.5ポイント改善の0.0と見込まれています。

こうした中、当面の重点施策として「経費削減」が37.5%となり、前回の7位から2位に上昇しました。

### ■経営上の問題点（）は前回順位

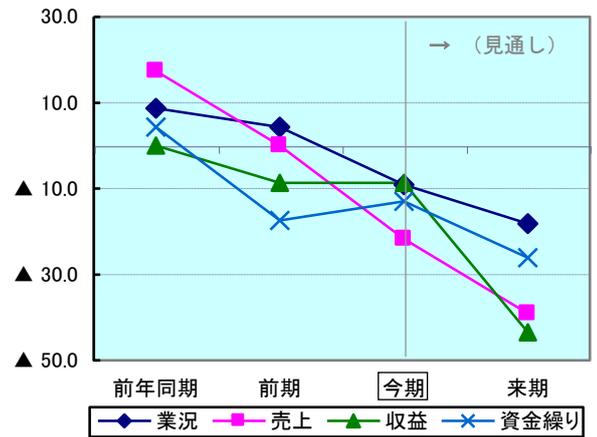
1	商品物件の不足(2)	62.5%
2	利幅の縮小(1)	50.0%
	同業者間の競争の激化(5)	50.0%

### ■当面の重点経営施策

1	情報力強化(1)	50.0%
2	販路拡大(3)	50.0%
	広告・宣伝の強化(3)	37.5%
	不動産の有効活用(5)	37.5%
	経費削減(7)	37.5%

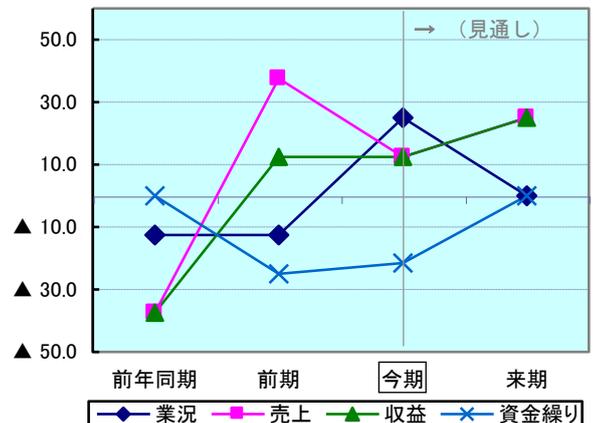
### ■主要D Iの推移

	前年同期	前期	今期	来期
業況	8.7	4.3	▲9.1	▲18.2
売上	17.4	0.0	▲21.7	▲39.1
収益	0.0	▲8.7	▲8.7	▲43.5
資金繰り	4.3	▲17.4	▲13.0	▲26.1



### ■主要D Iの推移

	前年同期	前期	今期	来期
業況	▲12.5	▲12.5	25.0	0.0
売上	▲37.5	37.5	12.5	25.0
収益	▲37.5	12.5	12.5	25.0
資金繰り	0.0	▲25.0	▲12.5	0.0



# <地区別D I の状況>

	国 中 地 区				東 部 地 区				相 模 原 市 周 辺 地 区			
	前年同期	前期	今期	来期	前年同期	前期	今期	来期	前年同期	前期	今期	来期
業況D I	▲1.4	▲20.3	▲19.7	▲7.0	16.7	16.6	▲13.3	▲16.7	0.0	0.0	0.0	▲12.5
売上D I	1.4	4.3	▲19.7	▲8.3	10.0	3.3	▲23.3	10.0	▲5.9	▲5.9	▲25.0	▲12.5
収益D I	▲4.3	1.4	▲20.8	▲5.6	3.3	▲3.3	▲16.7	▲3.3	▲11.8	▲23.5	▲31.3	▲6.3

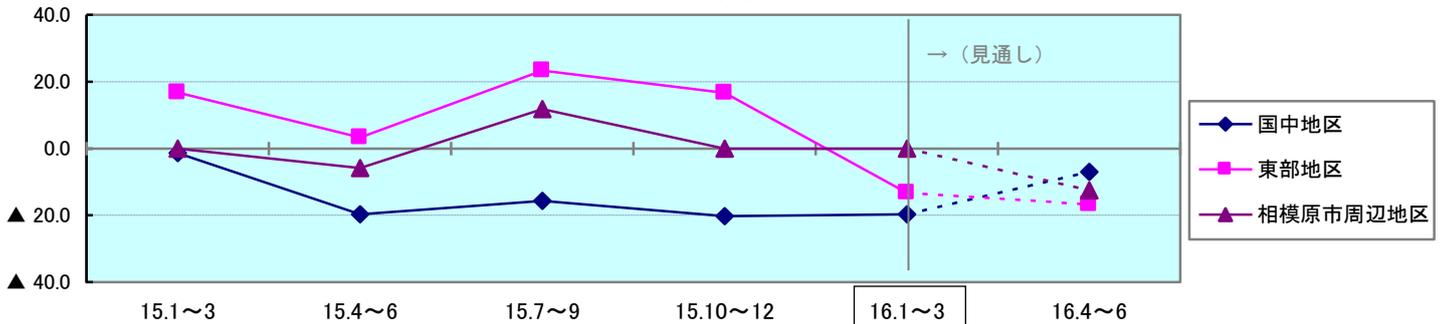
国中地区においては、業況判断D Iが▲19.7と、前期（10～12月）の▲20.3から0.6ポイントの改善となりました（前年同期比▲18.3ポイント悪化）。また、売上D Iは前期比24.0ポイント悪化の▲19.7、収益D Iは同22.2ポイント悪化の▲20.8となりました。来期（4～6月）の業況判断D Iは今期実績比12.7ポイント改善の▲7.0と見込まれています。

東部地区においては、業況判断D Iが▲13.3と、前期の16.6から29.9ポイントの悪化となりました（前年同期比30.0ポイント悪化）。また、売上D Iは前期比26.6ポイント悪化の▲23.3、収益D Iは同13.4ポイント悪化の▲16.7となり、全てのD Iで悪化となりました。来期の業況判断D Iでも▲16.7と今期実績比3.4ポイントの悪化が見込まれています。

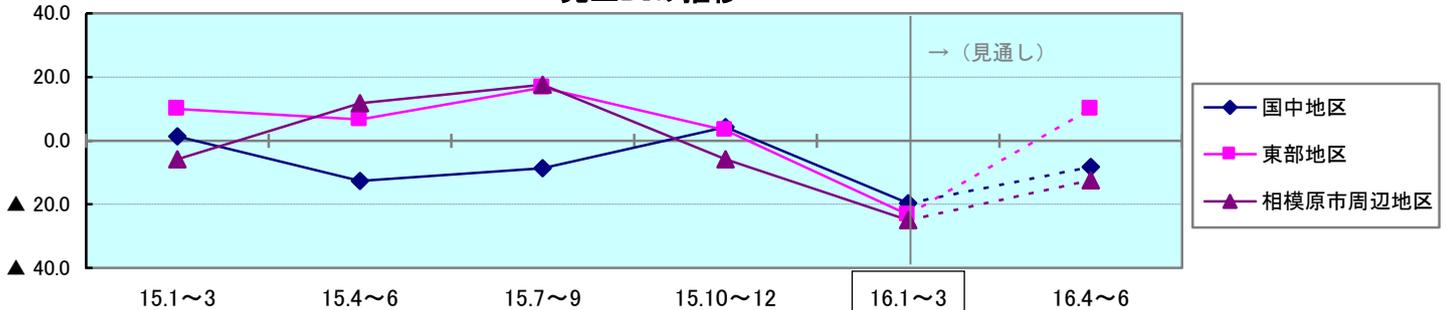
相模原市周辺地区においては、業況判断D Iが0.0と、前期から横ばいとなりました。（前年同期比横ばい）。また、売上D Iは前期比19.1ポイント悪化の▲25.0、収益D Iは同7.8ポイント悪化の▲31.3となりました。来期の業況判断D Iは▲12.5と今期実績比12.5ポイントの悪化が見込まれています。

地区別に見た景況感は、業況D Iについて国中地区、相模原周辺地区で横ばいとなっているものの、東部地区では悪化しています。また、売上D Iおよび収益D Iは全ての地区で悪化しました。来期については東部地区、相模原周辺地区の業況D Iで悪化が見込まれるものの、その他のD Iで改善が見込まれています。

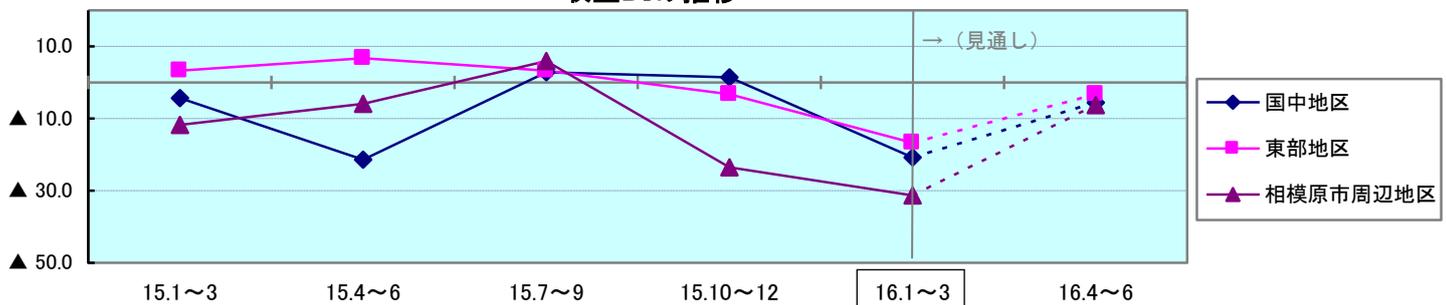
業況判断DIの推移



売上DIの推移



収益DIの推移

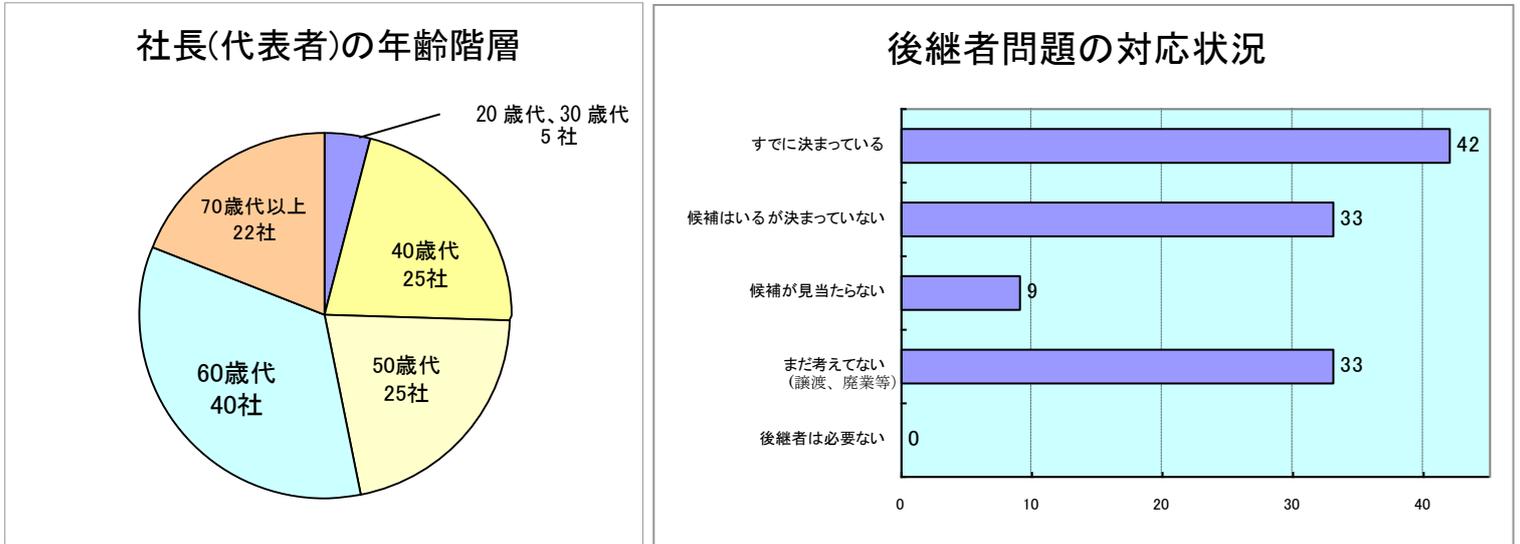


特別調査

中小企業の将来を見据えた事業承継について

◆ 貴社の社長（代表者）の年齢階層を教えてください。また、貴社の後継者問題の対応状況についてお答えください。（回答企業数：117社）

（単位：社）

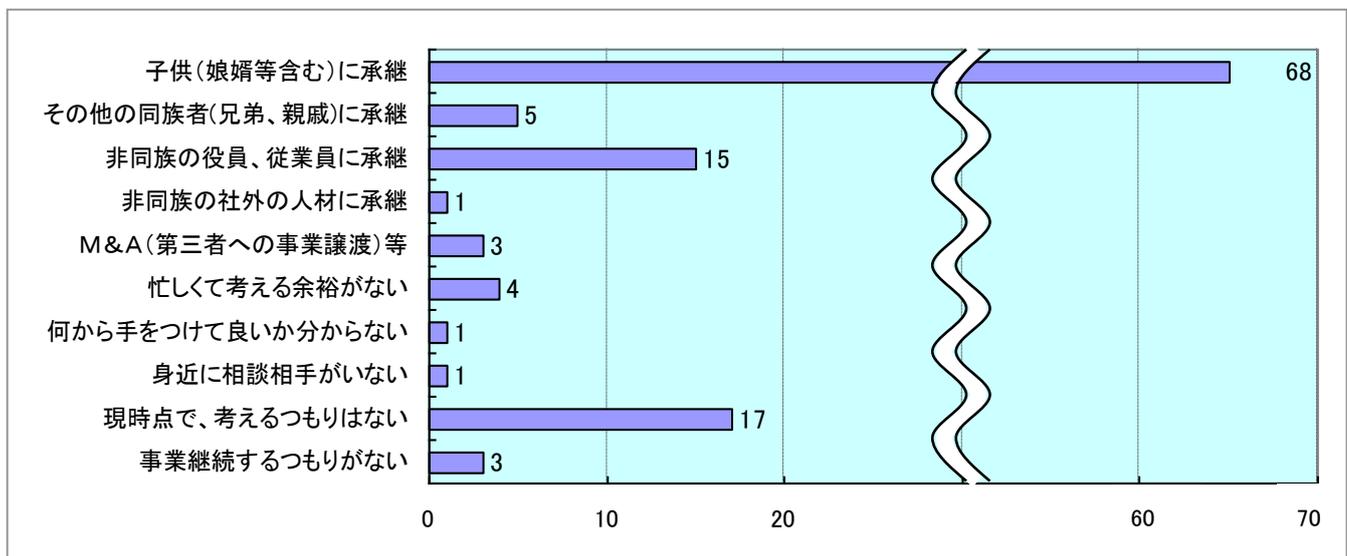


社長（代表者）の年齢階層については、60歳代が40社（34.1%）と最も多く、次いで50歳代、および40歳代が25社（21.3%）と続いています。業種別にみるとサービス業では40歳代～50歳代が62.9%以上を占めている一方、小売業・建設業・不動産業では60歳以上が60%以上を占める結果となっています。

後継者問題の対応状況については、「すでに決まっている」が42社（35.9%）と最も多く、次いで「候補はいるが決まっていない」、および「まだ考えていない」が33社（28.2%）と続いています。業種別にみると、卸売業で「まだ考えていない」が42.9%となっているものの、その他の業種については「決まっている」または「候補はいる」という回答が60%以上を占める結果となっています。

◆ 貴社の現時点における事業承継の考え方についてお答えください。（回答企業数：118社）

（単位：社）



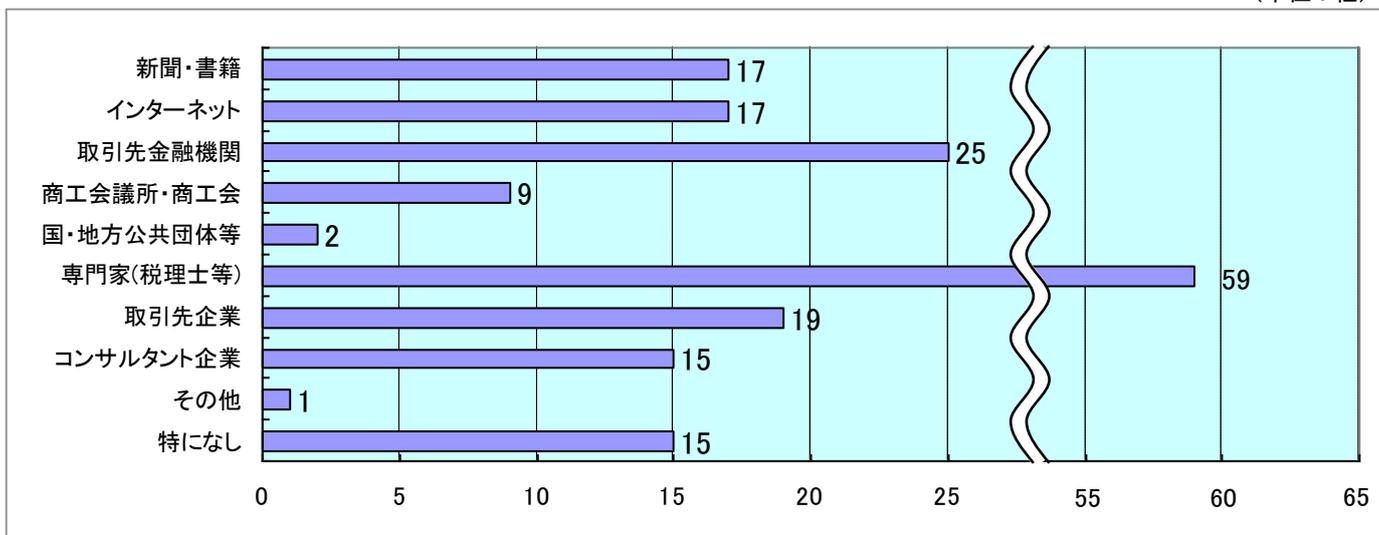
現時点での事業承継の考え方については、「子供（娘婿等含む）に承継」が67社（57.6%）と最も多く、次いで「現時点で考えるつもりはない」が17社（14.4%）、「非同族の役員、従業員に承継」が15社（12.7%）と続いています。この結果より、6割以上の経営者の方が将来は子供または兄弟等の同族者に承継したいと考えていることがうかがえる結果となりました。

業種別にみても、全ての業種で5割以上の経営者の方が同族者へ承継したいと考えている、という結果になりました。

◆ 貴社の事業承継に関する情報や知識の入手先をお答えください。

※各社2つまで回答（総回答数：117社）

（単位：社）



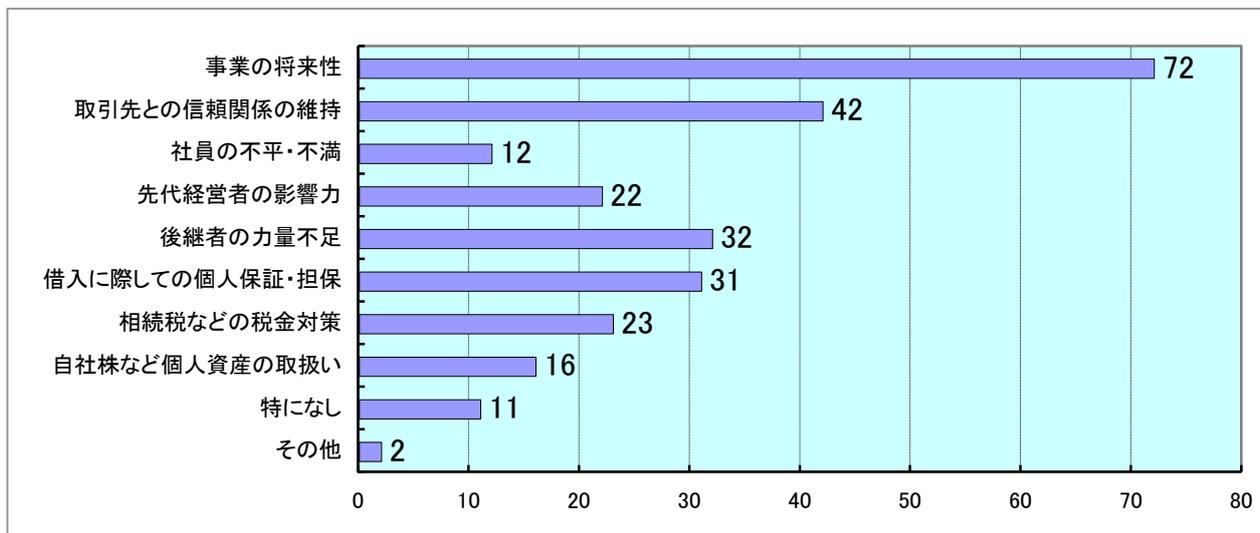
事業承継に関する情報や知識の入手先については、「専門家（税理士等）」が59社と最も多く、次いで「取引金融機関」が25社、「取引先企業」が19社と続いています。

業種別にみても、全ての業種で「専門家（税理士等）」に相談するという回答が最も多いという結果になりました。続く項目としては、製造業・卸売業では「取引先金融機関」、小売業では「新聞・書籍」、サービス業・不動産業では「取引先企業」、建設業では「コンサルタント企業」が続いています。しかし、2番目以降の回答については各業種ともバラつきが見られ、様々な先から情報を収集しようとしていることが分かる結果となりました。

◆ 貴社では事業承継を行おうとする際に、どのようなことが問題になると考えられますか。

※各社3つまで回答（回答企業数：117社）

（単位：社）



事業承継を行う際に想定される問題点については、「事業の将来性」が72社と最も多く、次いで「取引先との信頼関係の維持」が42社、「後継者の力量不足」が32社と続いております。

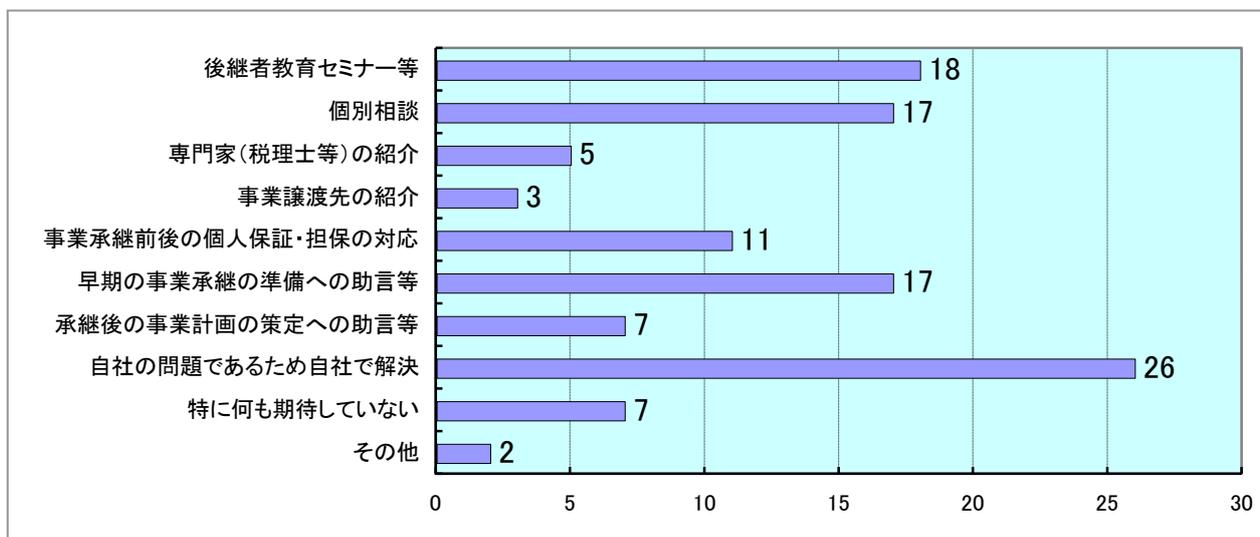
業種別にみても、全ての業種で「事業の将来性」が最も多い結果となりました。続く項目としては、製造業では「後継者の力量不足」が、卸売業・サービス業・建設業・不動産業では「取引先との信頼関係の維持」が、小売業では「借入に際しての個人保証・担保」が続いています。

回答の傾向としては「事業の将来性」や「取引先との信頼関係の維持」等、承継後、現経営者が退いた後の事業の継続・業況の維持について懸念を持っていることが読み取れる結果となりました。

- ◆ 貴社では事業承継を円滑に事業承継を進めていく上で、信用金庫に何を期待しますか。現在、期待していること、もしくは今後期待したいことについてお答えください。

(回答企業数：113社)

(単位：社)



事業承継を進めていく上で、信用金庫に期待することについては、「自社の問題であるため自社で解決」が26社(23.0%)と最も多く、次いで、「後継者教育セミナー等」が18社(15.9%)、「個別相談」、「早期の事業承継の準備への助言」がそれぞれ17社(15.0%)と続いております。

業種別にみると、不動産業を除くすべての業種で「自社の問題であるため自社で解決」との回答が最も多い結果となりました。不動産業では「後継者教育・セミナー等」が最も多い結果となりました。

これらのことから、多くの企業で独自の対応を考えていることが分かる結果となりました。一方で、相談や助言等への回答も多くみられ、信用金庫からの情報提供を期待する声も大きいということが分かりました。

## 調査員のコメント

### 製造業

○少量短納期の受注が増え、かつ利幅が縮小傾向である。生産性向上の為、人員の追加も検討しているが、当面は経費削減に努め利益確保を図っていく。(自動車・船舶部品製造)

### 卸売業

○売上は減少しているものの、取引先を見直し効率的な業務体制を整えており、利益確保に努めている。社長が高齢となり、子供への事業承継についても関心が高い。(眼鏡・補聴器卸売)

### 小売業

○商品の品揃えの改善に力を入れているが、近隣競合店との値下げ競争により、売上の減少が続いている。(家庭用品一般)

### サービス業

○県内の人口が減少している中、去年より売上が減少傾向である。売上確保の為に既存先の管理と新規開拓の双方について体制整備が急務である。(自動車整備業)

### 建設業

○業況は横ばいもしくは、若干の上向き傾向にある。マイナス金利の影響を受け戸建新築の売上が増えることを期待している。(一般建築業)

### 不動産業

○顧客ニーズに合わせた住宅商品のラインナップを揃え、顧客の囲い込みに努めている。事業承継については息子が同社で働いており、後継者について懸念はないが、自社株の分散等が今後、課題となる。(建売業・土地売買業)

## 編集後記

このたびの中小企業景気動向調査におかれましては、皆様にはお忙しいなか、ご協力いただきまして誠にありがとうございました。

今回の調査では、業況判断D Iが前期比9.4ポイント悪化の▲16.2と、前期に引き続いての悪化となりました。年初からの株安や日銀のマイナス金利の導入等、依然として景気の先行きが見えにくい状況が続いていることが一因と思われます。来期の見通しについては、今期実績比7.6ポイント改善の▲8.6と見込まれています。

また、今回の特別調査では「中小企業の将来を見据えた事業承継について」というテーマで調査しました。経営者の年齢や企業のライフステージにより、対応の状況は様々と思われませんが、当金庫におきましても、信金キャピタル株式会社等の外部専門機関と提携したM&A相談業務や事業承継ローンのご提供など、積極的に情報提供・支援に努めております。

その他の中小企業の抱える様々な課題に対しましても積極的に支援していく所存ですので、お気軽に当金庫営業店または担当者までご相談ください。